



第54回全国都道府県対抗自転車競技大会 自転車ロード・レース

今回のロード・レースには全国から101名が出場しました。来年の本大会ではその2倍以上となる235名が出場予定。今回のリハーサル大会をさらにスケールアップしたレース展開が期待されます。

燃ゆる感動

かごしま国体

リハーサル大会 2019年9月8日

鹿児島代表チーム 男子総合 4位 女子総合 1位

国体リハーサル大会開催
白熱のロードレースに熱狂

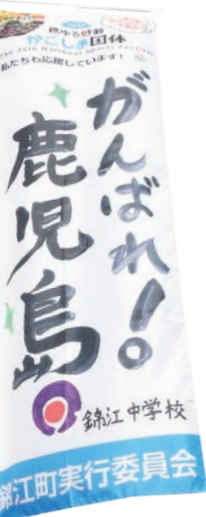
かごしま国体リハーサル大会として、自転車ロードレースを9月8日に開催しました。来年開催する本大会に向けて、大会運営の向上や地域一体となった盛り上がりを目指して行われたものです。鹿屋市役所前をスタートし、肝付町を経由して錦江町と南大隅町を周回する特設コースで実施され、男子は3周113.3km、女子は1周64.9

kmで順位を競う公道でのロードレース。沿道に詰めかけた観客からは、目の前で見ると迫力あるスピードに大きな歓声が上がりました。さらにゴール前では、選手同士の駆け引きやスプリント勝負で白熱のレース展開となり、この日一番の歓声が会場を包みました。本町から唯一出場した、富尾大地選手(田代上柴立)は、男子個人ロードレースの部で5位入賞。来年の本大会につながるレースとなりました。

地域全体で盛り上げた大会
来年に向けて新たにスタート

大会に向けて準備された子どもたち手作りののぼり旗や、育成団体が育てた花が沿道を彩り、全国から訪れた選手や関係者を温かく歓迎。当日は立哨員をはじめ、受付や給水係など多くの大会ボランティアによる協力で事故なく素晴らしい大会運営となりました。

国体まであと1年。鹿児島での開催は実に48年ぶりです。目の前で繰り広げられる日本トップクラスの競技を観戦すること、それはきっと見る人たちに憧れと大きな夢を与え、スポーツの楽しさを伝えてくれるのでは――。



迫力のレースに沿道から歓声上がる



ゴール前で応援する子どもたちも興奮



選手をサポートするニュートラルカー



男子ロードの部は白石選手が逃げ切り優勝



185インチの大画面モニターで実況中継



城元地区子ども会による沿道のゴミ拾い



会場では地元特産品でおもてなし



男子個人ロードの部 113.3km

順位	氏名	タイム	都道府県	チーム
1	白石 真悟	2:43:59	山口県	株式会社シマノ
2	中島 康晴	2:43:59	福井県	KINANCyclingTeam
3	天野 壮悠	2:44:23	大阪府	大阪府立千里高等学校
4	狩野 智也	2:44:57	群馬県	マトリックスパワータグ
5	富尾 大地	2:47:59	鹿児島県	CIELBLEU KANOYA

女子個人ロードの部 64.9km

順位	氏名	タイム	都道府県	チーム
1	石田 唯	1:48:47	京都府	北桑田高等学校
2	内野 艶和	1:49:40	福岡県	祐誠高等学校
3	橋本 優弥	1:49:40	岐阜県	鹿屋体育大学
4	吉川 美穂	1:49:40	和歌山県	LiveGARDENBiciStelle
5	大郎田 水桜	1:49:40	東京都	法政大学



CIELBLEU KANOYA 所属
富尾大地 選手
 [錦江町田代上柴立]

錦江町田代上柴立に在住。鹿屋体育大学を卒業後、プロサイクリングチーム「CIELBLEU KANOYA」に所属。地域密着型を掲げ、小学校での交通教室や講演会も行う。写真はレース後インタビューで甥の富尾律くんと。自転車地域を盛り上げる 22 歳。



「おもてなし」の心と「地元の声援がチカラに」
 2年前、当時大学3年生で出場した愛媛国体のポイントレースでは、見事優勝を果たした富尾選手ですが、地元でのレースは特別と話します。
 「見られない鹿児島代表のチームジャージでしたが、『富尾くんがんばれ』『大地きばれ』と名前を応援してくれる地元の声や背中を押してくれた」と、沿道からの声援をこれまで以上に大きく感じたそうです。
 さらに、コース沿いを彩ったプラントの花々や、子どもたちが思いを込めて手書した応援のぼり旗など、町全体で歓迎する「おもてなし」の心も温かかったと続けます。
 「レース中、錦江町では沿道の草がきれいに刈ってあることに気づきます。夕暮れまで草刈りをしてくれる人たちがいました。選手にとって走りやすいこともありますが、全国



悔しさの残るレース展開に苦笑いの表情でゴール。「周回コースのラスト1周で脚が残っていなかった。来年に向けて課題解決に向けた練習を積んでいく」と決意を明かした。

Tomio Daichi
富尾大地

を超えるロードレースの世界。「平坦でも40km以上で走行するので、目の前を集団が通過するときは、沿道の観客も風を感じられるのもロードレースの醍醐味」と続けます。

「おもてなし」の心と「地元の声援がチカラに」

「見られない鹿児島代表のチームジャージでしたが、『富尾くんがんばれ』『大地きばれ』と名前を応援してくれる地元の声や背中を押してくれた」と、沿道からの声援をこれまで以上に大きく感じたそうです。

かごしま国体まで1年 チーム錦江町で成功へ

「自転車競技に限らず、かごしま国体を通じてさまざまなスポーツを観戦してほしい。とくに子どもたちにとって迫力あるプレーや競技を肌で感じることは、憧れや夢を抱き、目標にチャレンジすることにつながるのでは」と期待を込めます。
 国内最大のスポーツの祭典「かごしま国体」開催まであと1年。県内各地で国内トップアスリートたちが熱戦を繰り広げます。選手だけでなく、ボランティアや応援も大会運営には必要不可欠。チーム錦江町で国体を盛り上げましょう。

富尾選手が乗るロードバイクは YONEX が提供する「CARBONEXHR」画期的な新素材と言われたカーボンが高次元でのクオリティを維持する



[鹿児島県代表 / CIELBLEU KANOYA 所属]

富尾大地
男子個人ロード・レース 5位

66名が出場した自転車ロードレース男子個人の部。完走はわずか10名。過酷なレースに参戦した富尾選手が語る「かごしま国体」を通じて伝えたいこと。



迫力のスピードレース 魅力を肌で感じてほしい

国体リハーサル大会の男子個人ロードレースに、地元錦江町から唯一出場した富尾大地選手。鹿屋市をスタートし、錦江町と南大隅町の周回コースを3周する総距離113.3km、獲得標高1693mのコースで66名の選手が順位を競いました。
 「リハーサル大会だからこそ、来年の本大会につながる魅せるレースにしたかったと話す富尾選手は、レース序盤から先頭集団を牽引し、スピード感のあるレースを展開。ラスト1周で遅れましたが5位入賞という成績を収めました。
 今回のリハーサル大会を通じて、自転車ロードレースの魅力を知ってもらい、来年のかごしま国体を盛り上げたいと語った富尾選手が自転車競技を始めたのは高校に入ってから。「当時は競技人口が少なかったのが全国大会に出場できるかも」と始めた自転車競技。初めて乗ったとき、そのスピードに魅せられたと当時を振り返ります。下り坂では時速80km

